



今年度は沼川流域 を実施

岳南地区は、水によって大きく発展してきました。ところが、さいきんでは市内のほとんどの河川が製紙工場などの廃水によって汚染され、わたしたちの生活環境は脅やかされています。水質保全のいろいろな問題は、企業はもとより、住民みなさんと一体になって考えていく

水質の調査もはじまる 今年度から3_カ年計画で

べき重要な課題になつていきます。

そこで、今年度から3カ年計画で水質汚濁の防止対策をたてるための調査を行います。

調査は、水質指導基準を効果的に運用するため、沼川流域の水質の汚濁現況を調べるとともに、汚濁源の調査、排水処理状況のは握を行ないます。これによつて地域別の流水基準を設定し、防止対策の基本計画を策定します。

今年度の調査期間は9月から45年1月まで行なわれます。調査区域は、沼川を中心に和田川、田宿川、赤淵川など6河川と流域の対象工場60工場について行ないます。

なお、昭和45年度は沼川と潤井川流域

を7月から46年2月まで、昭和46年度は中小河川を含む全水域を4月から47年3月まで実施することになつていきます。

調査項目は、気温、水温、色相、透視度、臭気、流量などと、沈澱状況や土地利用状況などについて、東海大学海洋学部へ委託して調査を実施しています。



【和田川の水質を調査するため水を採取する
調査員＝依田橋地先で】

岳南排水路

すでに123工場が利用

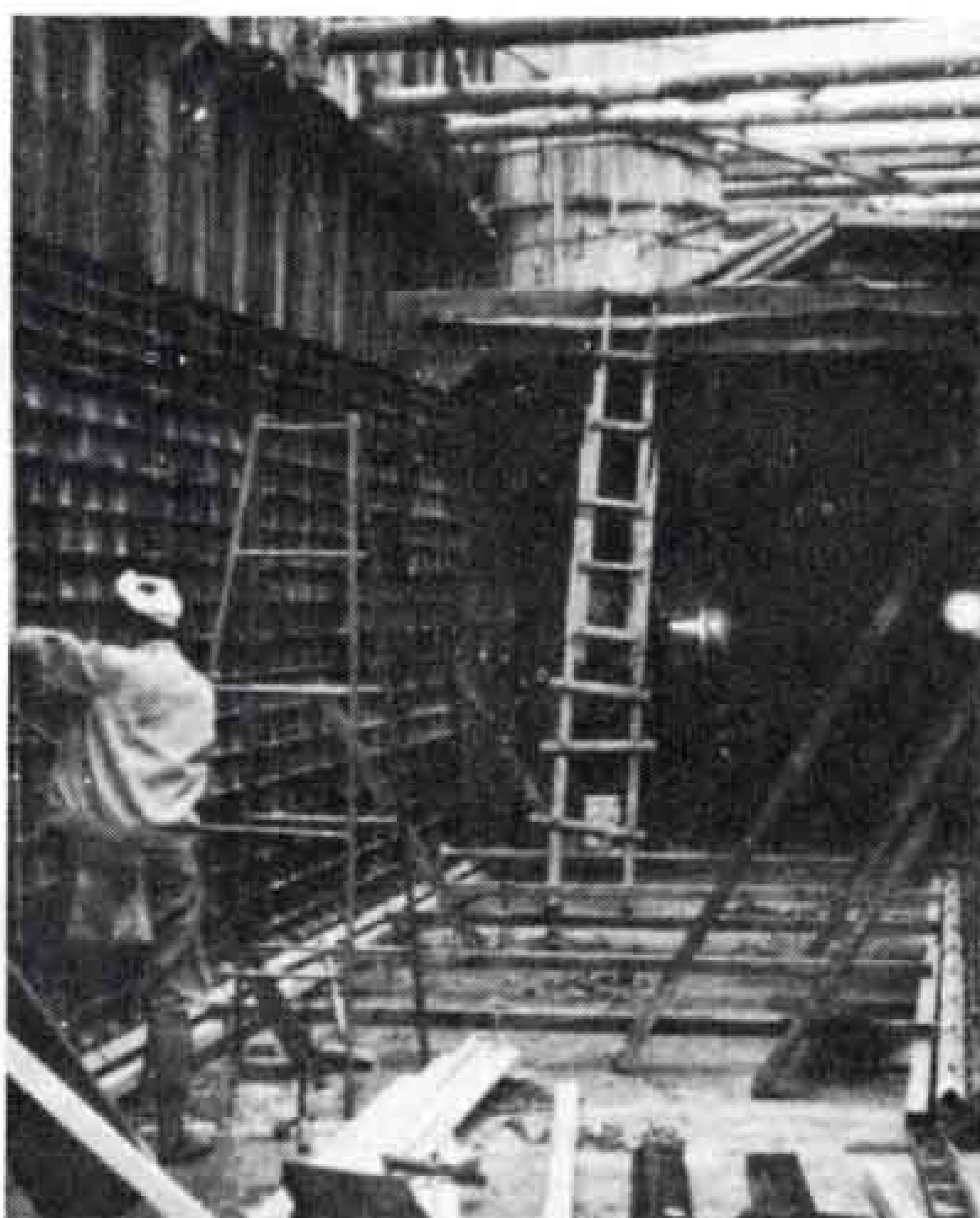
…完成は46年度の予定…

岳南工業地帯には現在約1400の事業所があります。このうち紙・パルプ工場は10社の150工場あります。しかし、製紙工業の進展には必然的に大量の水が必要になり、日量150トンの水を使用しています。この用水のほとんどが汚水となつて河川に排出されてきました。

そこで工場汚水排水路の建設が強く訴えられ、昭和26年から岳南排水路の建設の前期事業がはじめられ、現在約26,000メートルの排水路が完成しています。

この排水路を利用している工場は123工場。100万トン余の汚水が流されています。ところが、この汚水が田子の浦港に沈澱し、硫化水素が発生して附近一帯

に被害がでました。そこで昭和42年から5カ年計画で駿河湾に海中放流する後期事業がはじめられました。この後期事業が完成すれば日量240万トンの汚水が処理できるようになります。



【海中放流する幹線排水路の工事
現場＝田子の浦港付近】

現在、岳南排水路は1号から3号まで完成しており、4号と5号幹線排水路を建設しています。

1号排水路は富士宮市貴船から市内依田橋までの15,341メートルで70工場が利用しています。

2号排水路は今泉・原田地区から依田橋までの3,719メートルで36工場が利用しています。

3号排水路は原田地区から依田橋までの4,831メートルで17工場が利用しています。

4号排水路は元吉原から田子の浦港までの1,153メートル、5号排水路は前田から田子の浦港までの1,648メートルです。幹線排水路は田子浦港から砂山をとおり海中放流されるもので延長は2,652メートルです。

工事は昭和46年の完成を目指し急ピッチですすめられています。この事業が完成すると排水管の総延長は32,000メートルになります。前期後期を含めた総事業費は約39億円です。この工事が完成すれば、日本一の工場汚水専用排水路になり、汚水問題は一応解決すると思われま